



令和7年3月1日現在

人口	14,390人
男性	6,993人
女性	7,397人
世帯数	7,016戸

本郷地区の三九郎



▶大村の三九郎

新しい年を迎えた松本平では、正月から小正月にかけて三九郎が行われました。地区住民の祈りが込められた炎が盛大に燃え上がる伝統の光景が各地で見られ、一年の始まりを感じました。

26の町会を持つ本郷地区では、女鳥羽川沿いや田んぼの中など、数多くの場所で三九郎が組みられました。大きさや形、実施の時間ややり方も町会や集落によって異なり、同じ地区で様々な三九郎を見ることができました。

今回は、新春を明るく彩った本郷の三九郎について取材しました。

大村町会の三九郎

1月12日(日)に小正月の風物詩である三九郎が、大村町会でも盛大に行われました。朝から小学生たちが各家庭を回って正月飾りやだるまなどを集め、併せて道祖神の御札を配ります。

その間に大人たちは三九郎保存会指示のもと、心棒全体を丁寧にわらで巻き、18本の心棒を使って円錐形に組み立て飾り付けをします。高さ5メートル以上もあるやぐらを2基建て、火付け用の小さい

やぐらは帰ってきた子どもたち主導で建てました。

午後4時にはいよいよ点火です。燃えさかるその火で、白・ピンク・薄緑などの色を付けたまゆ玉やマシユマロ、また中にはソーセージを焼く姿もありました。

小学生から70代までの幅広い世代が協力する姿は、本当に素晴らしいものです。

冬の清々しい空に燃え上がる炎を見ながら、この先も継承すべき伝統行事であるということを実感しました。

(大村町会 Ⅰ)

大村の三九郎が組みあがるまで



▶準備。柱一本一本にわらを巻く



▶わらやだるままで肉付けして完成



▶組みあがった骨組み



▶作る数は大小合わせて3基

浅間温泉の三九郎

無病息災を願う小正月の伝統行事「三九郎」。浅間温泉の各町会では1月11日(土)夕方、女鳥羽川の河川敷で開催されました。

西の空が夕焼けで赤く染まり、暗くなり始めた午後5時ごろ、正月飾りやだるまを飾り付けて組んだ木のやぐらに次々と点火。炎が激しく燃え上がると、参加者は煙を避けて遠巻きに見守りました。

やぐらが落ちた後のお楽しみは、柳の枝に刺した「まゆ玉」を焼いて食べることに。焼き上がりをほおばる親子には「あつたかい」「おいしい」と笑顔が広がりました。

子どもは減りましたが、続けてほしい火祭り行事です。

(浅間温泉第4町会 Ⅰ)



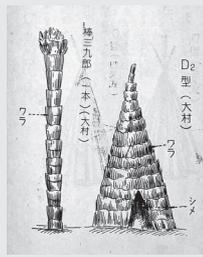
まゆ玉を焼く参加者

(裏面に続く)

昭和初期の本郷地区の三九郎

今年も各地区で行われた三九郎。ところで、昔はどんな様子だったのでしょうか。

昭和初期に本郷小学校三稲分教場で教鞭をとり、後には東北大学名誉教授を務めた竹内利美は、昭和16年に発行した著書『信州東筑摩郡本郷村に於ける子供の集團生活』で本郷地区の三九郎を詳しく取り上げています。その中には、三九郎作りの拠点とするため小屋を建て



かつての三九郎の挿絵 (74-75頁)

た、三九郎の歌を歌った、他地区の三九郎を焼くことがあったなど、現在では見られない三九郎行事の様子がうかがえます。かつての三九郎が分かる大変貴重な記録です。

(本郷公民館)

1月11日(土)に南洞地区で、小正月の伝統行事「三九郎」が今年も盛大に執り行われた。参加したのは子ども5人と大人10人。大人たちの手を借りながら、子どもたちは正月飾りやだるま、稲わら、青竹などを運び、やぐらを組み上げていく。その光景は、まさに地域の絆を感じさせるものだ。今年も晴天に恵まれたものの、最高気温は5・6度と寒い一日となった。しかし、子ども



南洞の三九郎

冬空に燃え上がる炎、地域の絆を繋ぐ「三九郎」

私たちは寒さをものともせず、元気いっぱい走り回り、祭りを心から楽しんでいる様子だった。午後4時、いよいよ点火の時。青空と冠雪の北アルプスを背景に、やぐらに火がつけられると、勢いよく炎が燃え上がった。その力強い炎と竹のはぜる音は、見る者を圧倒するほどの迫力で、とても美しい眺めだ。子どもたちにとって、この「三九郎」は冬休みの楽しい思い出になったことだろう。燃え盛る炎を見つめながら、無病息災を祈る。古くから受け継がれてきたこの伝統行事は、これからも南洞地区の人々の心を繋ぎ、未来へと受け継がれていく。

(洞町会 S)

浅間温泉 横手の春祭り

令和7年2月11日(火・祝)本郷公民館で毎年恒例の「第34回横手の春祭り」が大人から子どもまで73名の参加者で盛大に行われました。昨年に続き2度目の餅つきは、皆さんの大きな歓声が上がる中、次々とおいしそうなお餅が出来るようになりました。今年さら



2回目となった餅つき

においていちちゃんこ鍋を食べようと元大相撲力士である宇留賀響さんに作り方を教えていただきました。懇親会では皆で作ったお餅(あんこ、きなこ、ごま)と本格ちゃんこをいただきました。その後皆でビンゴゲームをやり、豪華な景品もあり盛り上がりました。東京から引越されて来たAさんは「この地域の皆さんは、とてもやさしく、安心して生活できる場所です。とても嬉しい」とおっしゃっていました。これからも楽しい集いで皆幸福な時間を続けていきたいらなあと願います。

(浅間温泉第1町会 Y)

ふれあい新年会

1月12日(日)、浅間温泉第8町会公民館でふれあい新年会が行われました。今年の冬は、一段と寒さが厳しく外に出るのもおっくうでしたが、年が明けたという清々しい気分と天気の良い誘われて多くの人が集まりました。ご近所であつても、家にこもって顔を合わせるのが少なくなっていました。



参加者同士の会話も弾む会食

にお互いの元気な姿を見て安心し、笑顔で声を掛け合う様子は、この一年を明るく過ごせる兆しのように思えました。「何となく、今年はいい事あるごとし、元日の朝、晴れて風無し」と歌った詩人がいました。まさにそんな気分。オードブルや寿司を囲み、お酒も少々いただいで笑い声の溢れる楽しいひとときを過ごしました。

(浅間温泉第8町会 K)

南浅間公民館 障がい者による音楽会

昨年の10月20日(日)、南浅間公民館文化祭が開かれ、障がい者のための音楽療法を行う「みらん教室」の演奏会が開かれました。演奏は副町会長の本村さんをはじめ障がいのある人を交えてリコーダー、バイオリン、チェロ、ピアノの楽器を真剣に奏で心温まる演奏でした。曲は「キラキラ星」「手をたたきましょう」などの8曲と、「わらおうみんな」を参加者全員で歌いました。手拍子を交え終始和やかに楽しい時間を過ごしました。音楽療法には脳の活性化や心身の安定、運動能力の回復にも役立つそうです。老化防止にもなりそうです。

障がい者のための音楽療法を行う「みらん教室」は本郷公民館で月2回活動しています。

(南浅間町会 N)



音楽会の様子